
だいすきっ！！ 『すにーきんぐっ！！』

犬兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

だいすきっ！！ 『すにーきんぐっ！！』

【Nコード】

N8926N

【作者名】

犬兎

【あらすじ】

ゆあは里見家の『いぬ』です。

お兄にとってもかわいがってもらっています。

毎日ご飯も食べてます。

毎日服も着せてくれます。

首輪つけてもらって散歩にも行きます。

とっても幸せな、ゆあとお兄のお話です。

今日は特別な任務に出かけます。

+ + +

人と動物の交配種族『デミヒューマ』と人間が共存する世界。この世界では、人間そっくりの動物を当たり前のようにペットとして飼育している。

そんな世界の日常のお話です。

ミッションはいたって簡単。お弁当を家に忘れたお兄に、それを届けてあげるだけです。でも、デミヒューマは学校には入れません。そこで立てた作戦はこれです。

「こちらゆあく。学校に潜入した。ミッションを開始する」

そう。学校への単独潜入。武器は現地調達。死んだときに当局が関知しないやつです。作戦を立てたのは大佐こと鷹子お姉さま。お姉さまが来ればいいのには思ってたけど、そこはもう今更気にするところではありません。ここまで来てしまったのです。

「あ、いぬ『いるっ!』」

「わっつ!?!」

だいですきっ!!

だいろくわ 『すにーきんぐっ!!!』

「わう・・・な、なんであんなにゆあのこと追い掛け回すのですか・・・?」

どれだけの執念があのお姉さんを動かしていたというのでしょうか。ちよっと触らせて、と十分近く追い掛け回されました。おかげ

で大幅なタイムロス。だけど今はもう授業中。ゆあを邪魔するものはいないはずです。

「校内に潜入するなら今です。 突入します！」

鷹子お姉さまの情報通り、体育館と校舎をつなぐ連絡通路には人がなく、さらに入り口には鍵がかかってません。なんともたやすく潜入に成功しました。

「わふ・・・ゆあにかかればたやすいものです」

「わ、さっきの『いぬ』またいたーっ！！」

「ええっ！ 授業はサボりですかっ！？」

撤退です！ 校内を走り回ると騒ぎになるかもしれませんから外に逃げます。茂みに潜り込んで、一気に学校の敷地から飛び出せばひとまず危機は去るのです。さすがに学校の敷地外までは追っこないようです。

「はぁ・・・ま、まさかサボってまでゆあを探すとは・・・」

あの人は危険です。『いぬ』生初のスニークグミッションにとんだ強敵の出現です。あの人は一体なんなのでしょうか。

再び敷地内に戻り、今度は警戒しながら進みます。木陰に隠れて辺りを見回して慎重に進んでいくと、いきなり誰かに肩を叩かれます。

「ゆあちゃん？」

「わふっ！！」

びっくりして逃げ出そうとすると待ちなさい、と引き止められます。振り返ると先日、公園で会ったお姉さんがいました。

「あなたは・・・こないだの」

「千尋。 あなたの飼い主のクラスメイト。 こんな所で何してるの？」

「お兄がお弁当を忘れたのです」

「そっか。じゃあ、届けに行こうか」

「でもさつきから邪魔が入ってなかなか先に進めないのです」

ゆあは千尋さんにこれまでのいきさつを話します。千尋さんはふむ、と少し考え込み、そうか、と呟きました。

「じゃあ、ゆあちゃんに教えてあげるわ」

「わふ？」

「 学校に潜入しても『いぬ』だとばれない百の方法」

そういうと千尋さんは近くの茂みにゆあを連れて行きます。そしていきなりゆあの服を脱がせようとするではありませんか。

「わふっ！ ゆあにはそんな趣味はないですよ！？」

「大丈夫。私もそんな趣味はないから。 私のジャージを着て学校に入ればいいのよ。耳は髪の毛が長いから隠せるし」

「し、尻尾はどうすればいいですか？」

「折りたたんでお尻の間にも挟んでおきなさい」

「わう・・・無茶ですよ」

ゆあにジャージを着せて千尋さんはこれでよし、とゆあの手を引いて昇降口まで堂々と進んでいきます。

「ば、ばれたりしないですか？」

「堂々としていればばれないものよ」

「ところで千尋さんはどうして今、学校に来たんですか？」

「寝坊したの」

私のことはどうでもいいでしょう、とゆあに上履きをよこして来た千尋さん。勝手に借りてもいいのでしょうか・・・？

「あ、さっきの『いぬ』っ！」

「わふっ!?! さっきのお姉さんです!?!」

「やっぱり先輩でしたか・・・」

千尋さんは呟いてゆあを自分の後ろに隠します。するとお姉さん

は千尋さんに挨拶して後ろの『いぬ』は何かしらと訊ねてきました。

「はい？」

「だから、その後ろにいる『いぬ』よ！ 千尋ちゃんのペットなの？」

「いえ。そもそも『いぬ』なんていませんけど？」

「何言ってるのよ。この子、さっきまでイヌミミつけてその辺をうるついでたのよ！？」

「イヌミミって、これですか？」

そう言っただけ千尋さんはゆあんの耳にそっくりなイヌミミをカバンから取り出しました。

「え？ じゃあ、もしかして……？」

「プレイです」

「ああ、そうなの……。もしかして千尋さんって、そっち系の人だった……？」

「そっち系の人です。イヌミミ付けた女の子が大好きです」

真顔で断言する千尋さんにお姉さんもたじたじ。まあ、個人の自由だから文句は言わないけど、人の迷惑にならないようにね、と言っただけお姉さんはどこかに行っただけでした。

「なーにが人の迷惑にならないようにね、よ。重度愛好者は迷惑じゃないって言うのかしら？」

「じゅーどあいこうしゃ？」

「デミヒューマ好き好き病よ。たまに人間とデミヒューマの区別が付かなくなってペットに異常な愛情を注ぐ人がいるの。あの先輩は学校でも有名な重度愛好者だね。この学校のデミヒューマ愛好者同好会の会長さんのの」

「わふ・・・それでサボりでゆあを追いかけてきたんですか」

「さて、敵もいなくなったことだし、さっさと教室に行きましょうか。お昼休みになったらもっと大変になるからね」

「はいっ！　ところで、千尋さんはどうしてイヌミミを持つていたんですか・・・」

「　　そ、それは・・・」

「教えてくださいよう」

「　　か、彼が・・・そっこの、好きで・・・」

千尋さんの顔が真っ赤です。

「もっつ！　そんなことはどうだっていいの！　さ、教室に行くわよ」

教室にはちょうど先生の姿はいません。千尋さんはチャンスね、

と呟き、せつかくだし直接渡してきたら？　と言ってくれました。
ゆあは頷いて、教室のドアを開けます。

「お兄〜！」

「げっ、ゆあ！？　なんで学校に？」

「お兄がお弁当忘れたから届けに来たんですよう。途中で千尋さんに助けてもらったんです」

「千尋さん？」

「例の先輩に捕まりそうだったから、ジャージを貸してあげたの」

「そっか。千尋さん、ありがとな」

「ところでお兄。一つ聞いてもいいですか？」

「なんだ？」

「イヌミミが好きな彼がいると千尋さんは寝坊するのですか？」

教室中が凍りつく。千尋さんを見てひそひそと話をしているクラスの人たち。千尋さんは顔を真っ赤にして違うってばと否定しますが、もう後の祭りです。

「ゆあ」

「わふ？」

「余計なことは聞かなくていい!!」

「わぶっ!!」

お兄のゲンコツがゆあの頭に直撃。なんでこうなるんですかっ!？
こうしてミッシヨンコンプリート。お昼休みになる前に撤退します。千尋さんも送りに付いて来ています。

「酷い目に遭いました……」

「私もゆあちゃんのせいで酷い目に遭ったわよ……ああ、教室に戻るのが怖いわ……」

一体何を追及されることやら、と千尋さんはため息一つ。涙目で今日はもう帰ろうかな、と呟いています。

そしてまたさっきの茂みでジャージを脱いでいると、なにやら人の声がします。千尋さんがなにかしら、と頭を上げると、すぐにその頭を引っ込めます。その勢いのあまり、ゆあの頭とぶつかります。

「わぶっ!!」

「しっっ!!　ここにいてはれたらまずいわ」

「な、何があるんですか……?」

「　　修羅場ってヤツね」

「しゅらばっ」

とうとう年貢の納め時か、と千尋さんは呟きます。そっと顔を出

して状況を観察している千尋さんはどこか楽しそう。楽しそうならゆあも一緒したいです。ゆあも同じようにのぞきます。すると、そこにいたのはゆあもよく知る、あの人なのでした……つづく。

次回予告

「どうしてイヌミミ好きな彼がいると寝坊するのか、体で教えてあげるわ……ゆあちゃん」

「わふっ!?! ご、ごめんなさい千尋さん!?!」

嘘です。そんな次回はないです。

ゆあはあまり頭はよろしい方じゃないです。あ、でもちゃんとお兄にたくさん教えてもらってますよ! お手もできます。お座りもできます。ふせもちゃんちんも大得意ですよ!

次回『だいすきっ!?!』は、

『じよしばなっ!?!…』

ゆあとお兄のクラスメイトたちの女子トーク。

男子禁制、女の子の秘密の時間が始まりです!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8926n/>

だいすきっ！！ 『すにーきんぐっ！！』

2010年10月10日07時59分発行